

第7回弥生いこいの広場隣接地利活用市民懇談会  
会議録【議事概要】

日 時：平成24年9月27日（木） 午後6時半～8時8分  
場 所：船沢公民館中研修室  
出 席：澁谷リーダー、メンバー8名、計9名  
欠 席：2名  
事務局：3名

---

1 開会（定刻）

2 前回の会議録の確認

- ・事前提出のあった修正意見について事務局から説明し、修正内容を確認した。
- ・市のホームページにおいて、会議録を公開することについて了解を得た。

3 作業

- ・澁谷リーダーが前回の懇談会の内容をおさらいし、資料について説明。
- ・その後、ゾーニング（案）、ゾーニング整備イメージ（案）を基に、整備手法等について議論する。

【堀内】

拠点－1から拠点－4に機械をどのように入れていくのか。ボランティアでは限度がある。

【澁谷】

この懇談会が具体的な整備手法と整備内容まで詰められない。だから、大型機械が入ればいけないなどとは言いづらい。ただ、表現としてみれば、現状にダメージを与えないような手法でやってください、としか言えない。やはり、土工事が必要な場所がある。いくらマンパワーでやっても限界があるので、ある程度は入らざるを得ないのかと思う。

【竹浪】

これまで話し合ってきた内容が、うまくまとまっていると思う。工事をする際に、インパクトをいかに少なくするかが課題なのではないか。それから、休

憩広場の危険防止の対策も難しいだろう。簡単な柵を設置しても、1シーズンの雪で壊れてしまうので、いろんな工夫が必要だと思う。

【澁谷】

柵があるから防止だという整備は考え直さなければならない。崖地から木が生えているので危険性はわからないけれども、崖だという意思表示は必要だ。毎年の雪に耐えうるものを考えなければいけない。

【竹浪】

休憩広場の整備で、眺望をどのように確保すれば良いのか。

【澁谷】

どうしても土工事をしなければならないところは、ある程度仕方がない。現地へ行って、実際確認して、この木は生育不良でここには合わないだろうとなれば、チェーンソーで切る。もし、ここをボランティアで整備するのであれば、チェーンソーの講習会や道具の講習会を行うと結構集まると思う。のこぎりとなたを持って入るわけにはいかないの、少しレクチャーしながら、やっていけたら良い。

【竹浪】

工事委託は良いのだが、眺望を確保するために斜面の木を、いつも切らないといけなくなるのではないか。木が成長してくれば、そのうち見えなくなるのではないか。初めから眺望を活かした広場だと眺望の確保の問題が出てくる。眺望にあまりこだわらないような活用の仕方を、初めから考えたほうが良いのではないか。

園路-3は、どの程度の木道の整備と観察を考えているのか。できれば回遊できるようなイメージを持っていたのだが、実際には園地をみて決めることにはなると思うが、ゾーニング(案)は行き止まりになっている。実際にはいろんな意見を聞きながら整備していくことになっていくと思う。

図面の中に、議論の中で出ていたソフト面のガイドの必要性を、どこかに表現すれば良いのではないか。

【澁谷】

こういうことをやるためにソフトが必ず付きまとう。どんぐりの森から実生をみつけてきて苗木を植えるにしても、指導者がいないとできないので、その辺も表現していかないといけないと思う。

【阿部】

一番心配なのが、工事委託。機械が入ると信じられないくらい荒れる。あるところの道路工事は、いろいろ協議して決定した。工事を進めていくときに前面にだけ進めていく約束をしていたが、実際はいろいろかき回して、周りにどンドン土を捨てていく。工事というのは機械を使い、いかに安く上げるかだから、工事委託というものに注文が必要だ。幅を広げたり、高低差をなくしたりして出てきた土を下に捨てたり、沢に捨てたりしたら大変なことになる。工事の仕方に対して、しっかり要求しないとイケない。

【澁谷】

この工事がどのような形で発注されるかわからないが、工事金額を決めるということは図面がなければいけない。仕様書で設計と管理をどのような形にするのか。弘前市は管理まで行っているのだから、発注業者に任せきりということはない。

【高田】

皆さんが知恵を出して、良いアイデアで進んでいるのですごく良いと思う。あとは、どういうソフトを張り付けるかが問題になると思う。

【澁谷】

今まで議論されなかったロープ塔スキー場跡を使って、今回うまく活用しよう。それで人を呼んで森づくりのためにやろうということだから、ソフトとそれを指導する人を集めて育てていくかということが重要になってくる。

細かいことはまだ詰め切れないが、大きな枠の中ではこのような進め方で落ち着きそうな形である。

【阿部】

森の育みエリアに、「どングりの森等から実生播種及び苗木移植等を行い、森作りを進める」と「湿地帯の遷移による森作り」とある。これに、私は引っかかっている。実生を蒔くことは構わないけれども、苗木移植をするとなると林床の中を生き続けてきた植物を掘り返したり、穴を掘ったりする。こういうことをするのは、自然の遷移、成り行きを乱すのではないかという心配がある。少しの木を切ったりするのは構わないけれども、穴を掘って木を植えるということは非常に引っかかる。その木は間違いなく育つとは限らない。以前も話をしたけれども、跡地に随分マツの木を植えたが、育っているのはどの位あるか。そのマツの木が成長して、材木として利用できるのであれば話は分かるが、マ

ツの木は今の時代、ほとんど材木として利用しない。そのマツの木があちこちに残っていて、大きくなってきたら森作りに非常に邪魔になる。

どんぐりの種を蒔くのはそんなに大したことではない。育つものと育たないものとあるので、毎回やれば必ず育つものがあり、うまくいくはずだ。それは、差し支えないだろう。半分以上育たないもののために、穴を掘るということは、私は問題ではないかと思う。

だから、森を作ろうと植林すること自体は、思想的に嫌いではないけれども、この場所はできれば自然の遷移に任せていただきたい。その遷移の中で育てるのであれば、どんぐりを蒔くぐらいであれば構わないだろう。穴を掘って植えるということは、その半分以上は無駄になる。半分以上無駄になるに違いないもののために、穴を掘ってひよっとすれば別な植物が育つかもしれない部分もだめにする可能性がある。

上の西側エリアに珍しいランや植物が生えている。穴を掘って植えることをしていたら、こういう植物の発達や定着は望めなくなる。できるだけ穴を掘ったりしないようにしてほしい、というのが私の意図だ。

#### 【久保田】

私はイメージだけですばらしいなと思う。前に見に行ったときに、休憩広場からみた眺望がすばらしい。今年みたいな暑い日が続いた時には、この場所で森林浴ができれば良い。

子どもたちが木の下で遊べるような場所になるということは、植えてあげないといけない。実生だと我々には時間がない気がする。大きくなるまでかなりの年数が必要だから。りんごの木でさえも時間がないから植替えはできない。次の世代に渡すまで、りんごが生るところまで見られるかを我々の世代は考えるので、植林や移植が必要ではないかと考えている。

#### 【澁谷】

どれくらい植えることができるか見当がつかない。シイの木の林の中に、少し芽が出てきたものをどれだけ探せるか。阿部さんは穴を掘るのがだめだということだから。

#### 【堀内】

阿部さんが話していることもわかるが、ゾーニングしているのでエリアによってはあるのかなと思う。

#### 【神（聖）】

ゾーニング（案）をみてイメージが浮かんでくる。去年からトンボが多くなって今年はさらに多くなった。昔はトンボがいっぱいたが、どんどん少なくなって一昨年はトンボがいなくなってしまった。それが、去年から多くなって、今年は大群になった。何十年ぶりにオハグロトンボをみて、跡地の関係なのかなと思った。オニヤンマトンボが午前中も午後もいつもいて、こういうところが大切にされていくと、もっと増えていくのではないかと思う。

阿部さんのお話のように時間はかかるけれども、そっとしておく場所があっても良いと思う。昔はよく見ていた動植物を近年見なくなっていたが、最近また見るようになってきた。

#### 【蒔苗】

今まで話し合ってきたことが、形になったなという感じだ。工事は専門的な知識がある人に任せて、その辺になれば我々の範囲とは違う。どのように活用するかを話してきたので、あそこは山にかえす、森に戻すという話で使える場所は人が入って山菜を採るなど、人が入れるようにする。

森にかえす方法もいろいろあると思う。人的なところはボランティアや団体になると思うので、事業とか行事の組み立てをいろいろ呼びかけていけば、いろんなやり方が出てくるのかなと思う。

#### 【澁谷】

今、蒔苗さんが話したように、どうやってここに人を集めてうまく関わってもらって、その人たちがガイドになるなどの仕組み作りだ。先立ちになる人が、地元が関わってこないと続いて行かないと思う。

#### 【神（尚）】

ゾーニング整備イメージ（案）は非常によくまとめていただいたと思う。基本的に、自然にかえすと人が入れなくなる部分があるし、活用するには市民の人がいろいろ入って欲しいという部分もあるのでどこまでやるか。森にかえすやり方をするために、人を入れながら森にかえす方法を考えている。

例えば、人が入るために歩道が整備された部分は必要だし、安全面も必要だ。地元の人を活用するために、小学校や中学校の授業で取り組んでもおもしろい。そうすれば、子供たちが穴を掘ったりするかもしれないし、指導の方法なども課題として出てくる。

#### 【澁谷】

ゾーニング（案）は線で囲っているだけだが、これに対してどういうことを

やるというソフトの張り付けだ。それには、もっと話し合いをしなければならぬ。懇談会ではもっと書き進めて行って、わかりやすい絵にする。それはあくまで、ボヤっとした感じだから具体的な話にならない。こうすると人が関わりやすくなるということを少し話してもらえないか。

森の育みエリアで湿地部分とそうでない部分をどう考えていけば良いのか。そのヒントを少しいただければ良い。

どんぐりの森を広げていく方法として、どうすれば良いだろうか。そのためにはやはり人だ。人が必要だ、その人を育てていくにはどうすれば良いか。整備をしながらどう遊んでいくか。こんなことをすれば、人が集まりやすいし、レクチャーもできるしどうだろうか。人が入るということは休む場所が必要だし、飲み食いする話もあるだろう。あと、事業期間ということで短期、中期、長期と書いているけれども、本当にこれで良いだろうか。

#### 【高田】

こんなに広いエリアを公園として位置付けすると、弥生いこいの広場が核となる。全体的に一つのものとしてここを運営していくような団体が必要だ。そういう組織を作らないと難しいのかもしれない。いこいの広場は生き物を飼っているのだから、簡単にはいきませんよね。これだけのエリアだと、一つの組織だった団体が一つのエリアとして運営していかないと難しいかもしれない。人を集めて講習会をやって、その施設がどんどんできていくという手法はありだと思う。その中で指導者を育てていくし、そこに関わった人は思いがあるので必ず来るようになる。そのようなイメージの組織づくりが必要だと思う。これだけのものを行政だけというのは難しいかもしれない。

#### 【澁谷】

どういう形の組織になってどういう名前になるかわからないが、自然発生的になるのか、最初からまとまるのか、何かないとまずい。最初は小さな組織かもしれないが、人が人を呼んで大きくなっていけば良い。その時にどうしても気になるのは、ここは弘前市のものではあるが、地元の人だ。地元の人が中心になってくれないと、街から来て何かやっているでは長続きしない。

#### 【竹浪】

そういった意味では、今回の懇談会ではここをどうするかということで、いろいろ意見を言ってきたけれども、イメージしたものをどう継続していくのかは地元を含めた話し合いが必要になってくるでしょう。

【澁谷】

今回はこのような利活用のイメージだ。そして、これをもって地元の人たちと詰めていかないと、なかなか理解が得られないのではないかと。そこまで少し書いておかないと、ただ、絵だけができただけではおもしろくないので。

【竹浪】

これだけボランティアという言葉が出てくるが。

【澁谷】

本当はボランティアという表現はしたくなかった。ただ、なかなか良い表現がない。例えば、有志建設隊でも良い。

皆さんはずっと関わってきてイメージが湧いてくるけれども、初めて見る人のイメージ作りをどうするか。ここに書いてある拠点-1、拠点-2という名前が良いのか、もうちょっとしゃれた名前を付けるのか。弥生いこいの広場隣接地という名前を止めて、もうちょっと気の利いた名前を付ける。それは、この懇談会ではなくて、広く市民に付けてもらう。そのためには、皆さん一回見に来てもらい、市民に目を向けてもらうことが大事だと思う。

【高田】

市民再生の森だね。市民再生の森ということで市民の皆さんに関わって欲しい。そういうアピールで構築していくのはおもしろい。

【阿部】

今までの話を聞いて、今、つくば市でよく似たようなことが行われている。本もたくさん出ている。そのつくばの中で論議つくされたことが、ほとんど出ているのでびっくりしている。

【澁谷】

ここまではきたけれども、ここから先が問題だ。ここから先というのは、こういう形の1枚のものを作ってしゃれた名前を付ければ良いというものではない。そのためには、どうすれば良いかという整備イメージをもっときっちりしないと。我々の手から離れたときに変わっていく話になる。

【阿部】

今、だんぶり池はどうなっているか。ボランティアはうまくいっているか。

【澁谷】

だんぶり池を整備して10年が経った。10年経って、木道は完全に腐って利用できない。何回も補修したけれども、木道の柱部分がだめ。松を使ったが、水に埋まっている分は良いけれど、水位が動くところ、木口から腐ってくる。それと座板の部分はどうしても風化してくる。しょっちゅう補修をしたけれども限界で、全部一新しないと無理だ。

周りの県有林だが、さすがに10年経つと生長してくる。そうすると、なおさら日差しが入ってこなくなる。

下で水田を耕作している人がおり、我々は取水していないけれど、今年みたいな日照りの多い年はなかなか水が入らないとクレームが来たりする。

当初は、市民のかたとみんなで作ろうとの掛け声だったけれども、結果的には、HEPが作りHEPのだんぶり池となってしまった。決してそんな風に思っていない。10年を機会に我々はもうやめようと話した。やめようというのは、HEPが今のままで手を加えていくとまた同じことになるから、だんぶり池も10年経ってリニューアルしなければならない。それを広く市民に公開していろんな意見をもらってやろう。そのような話になったけれども、その後話が進まず、予算の話もあって自分たちで手を付け始めた。やりだせば、またその後5年、10年と継続することになる。

【阿部】

1つのモデルとして考えていたのだが。

【澁谷】

ある意味、我々も悪かった。いつも告知はするけれども、なかなかうまくいかない。ここに関しては、それは避けたい。それをやれば、ここに関わった人たちがあとで大変な目に合う。毎年、いろんな人が関わってきて、手を掛けていってという手段にしていかないと継続はしていかない。反対に、市民に任せればこんなものだ、と笑われるかもしれない。

ようやく皆さんの今までの活動が実を結んで、我々の手にここが一旦来たわけである。これからの10年をしっかりと考えていかないといけない。好きにああすれば良い、こうすれば良いという話ではない。

土木工事業者もピンキリだ。代理人に理解があれば、無理なことはしないけれど、とにかく、採算を採ることを優先すると、先ほど阿部さんが危惧されたようなことが無いとは言い切れない。ここでそういう話はなるべく避けたい。この広さだととてもでないが、マンパワーではできない。



【阿部】

つくばでやっているのは、意外と市民の協力を得ている。どういうスタイルでやれば良いか私はわからないけれども。

【澁谷】

ここの僕のイメージは、細かい図面や積算の根拠などないといけませんが、全部工事の人にやってもらうという意味ではない。我々が頑張っても進まないような土工事など最低限のことをしてもらって、あと細かいことは我々の手でやろうというイメージ。どこまで機械が入ってやるかという問題があるけれども。工事途中を見せる、監視付きでやるという方法もあるかもしれない。

【久保田】

先ほどボランティアの話が出て、弥生の人たちにどうのこうのという話があったが、今地域の人たちは本当に忙しくて、猫の手も借りたいほど。今は夜も電気を付けながら作業している状態。そういう人たちにボランティアで参加してと、とても言える状態ではない。広く市民の人たちにお願ひすれば、ボランティアが集まって作業してくれる方々がいると思う。

【神（聖）】

地元の人だけというのは無理だと思う。そういうものに興味のある親、トンボを捕るような子どもたちの親は少ないし、その上の世代は私たちだ。市民の中に気になる人がもっともっといと思うので、そういう人たちに広くボランティアを募る。地域の人たちは、非常に難しいと思う。

【澁谷】

それが現状なのか。

【久保田、神（聖）】

そうですね。

【澁谷】

ここをやることによって、地元に対して貢献できるかという話があれば良い。ここを整備するのに具体的な話をまとめて公募すれば、市内からいろんな方が参加してくれると思う。その人たちは自分の都合の良い日しか来ない。ずっと来るという人はそんなに多くないだろう。

春先の雪が解けたあと、見回ってくれる人はごくごく稀だ。頻繁に見まわっ

てくれる人がいないといけない。この辺が不備だとか、この辺が壊れているということをもとめて、整備スケジュールをたてながらやっていかないといけない。そういう風な定期的なことをやって、地元の人に見まわり管理をしてお金が落ちるのであれば、最初は良いかなと思っている。

やはり、少しでも経済効果がないと良くないのではないか。

【阿部】

つくばの場合には、山の手上流の人と下流の人が信じられないくらい協力している。ボランティアが下流から来る。なぜかというと、筑波大学の先生たちが下流の人たちに上流の人たちから恩恵を受けていることを話す。川の水は上流から流れてきて、下流の人を支えているわけだから。そういう話を繰り返し筑波大学の先生たちが話している。そういう上流と下流の結びつきを作っている。だから、ボランティアの人たちは上流ではなくて、下流の街のほうから来ている。そういうシステムを作り上げていくというのは、システムチックに組み立てていかないとだめだなと今回出ている本からわかる。

ところが、それはできるとその人たちは言っているが、私自身は自信がない。私は岩木山を考える会を持っているけれども、ボランティアをやるとは簡単に私は言わない。なぜかというと、私が会長を辞めるとどうなるかわからないから。そういうのに、私は責任を持ってない。だから、これからどうして行くかという点について、ボランティアをどうやって育てていくかというのが一番の課題ではないか。

【澁谷】

実際そうだ。言葉で書くと簡単だが、非常に無責任になってくる。

【阿部】

法律的に川の上流に毒を流そうが、農薬を捨てようが下流の人たちは文句が言えないそうだ。特にひどいのは国の場合で、中国が毒を流してもロシアは文句を言えない。

だから、上流の人の協力なくして下流の人がない、ということを理解してもらいながらでないと、本当のボランティアはできないと思う。

【高田】

市場経済の中でみんな泳いでいるから、基本的にボランティアは持続不可能。経済が伴ってこなければ持続不可能なので、指定管理しかない。指定管理を受けたところが、全体をコーディネートしながら運営していくことが必要だ。こ

こに、生き物がいるのでそれぞれの専門分野の人たちが集まってコンソーシアムを作れば良いだろう。

森の育みエリアは弘前大学とかに学術的な部分だと思うので、学術の森にしてしまって、手を付けないのならどう自然が再生していくかを学術的に調査、研究のエリアとしてやっていっても良いのではないか。

上のエリアは、市民の森として市民がどんどん関わっていく。2つのエリアに分けて、あとはそれを運営していく団体だと思う。そして、市がどれだけ予算を取るか。その中で、地元の若い人が雇用できる仕組みができるかどうか。それで、持続可能な施設として地元へ貢献できる。最終的には、農産物の直売をやっても良いだろう。やはり、運営母体がカギになってくると思う。

【澁谷】

今までの公園などのように、できたので使ってください、ではない。自分たちで作っていくスタイルを目指したい。そうなれば、運営が絡んでくる。

【阿部】

この問題に元弘前大学の山下先生が関わった時に、しめた、と思った。けれども、弘前大学は白神はやるけれども、こっちはやらない。

私は白神に当初から関わってきたが、あそこの昆虫を調べて報告書にしたのは私だ。白神は随分やったけれども、弘前大学ができて弘前大学がやる限り、私がやる必要がなくなった。現在、私は白神の問題にほとんど手を付けていない。こっちにも少し力が欲しいなと思う。

【澁谷】

運営や人を呼び込む話に至るまでいろんな意見をもらった。皆さんの方向性はだいたい同じものになってきたが、もう少し手を加えると違うということが出てくると思う。今日、言い忘れたことでこの辺も考えて欲しい等、意見はないか。

【竹浪】

直接のエリアだけの話でないので外したと思うが、登山道の整備の関係も付け加えてもらいたい。

#### 4 閉会

最後に、次回の日程調整を行い、12月13日（木）の18時30分から船沢公民館中研修室にて開催することを確認し、第7回懇談会を閉会した。